安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 : ジオキサン
製品コード : B508020

会社情報

会社名 : 東邦化学工業株式会社
住所 : 〒104-0044 東京都中央区明石町 6-4 ニチレイ明石町ビル
連絡先 : TEL：03-5550-3737 FAX：03-5550-1988
緊急連絡先 : TEL：03-5550-3739

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途 : 溶剤
使用上の制限 : 本製品を推奨用途以外に使用する場合は、事前に弊社に相談してください。

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理的危険性	爆発物	区分に該当しない
	可燃性ガス	区分に該当しない
	エアゾール	区分に該当しない
	酸化性ガス	区分に該当しない
	高圧ガス	区分に該当しない
	引火性液体	区分 2
	可燃性固体	区分に該当しない
	自己反応性化学品	区分に該当しない
	自然発火性液体	区分に該当しない
	自然発火性固体	区分に該当しない
	自己発熱性化学品	分類できない
	水反応可燃性化学品	区分に該当しない
	酸化性液体	区分に該当しない
	酸化性固体	区分に該当しない
	有機過酸化物	区分に該当しない
	金属腐食性化学品	分類できない
	鈍性化爆発物	区分に該当しない
健康有害性	急性毒性 (経口)	区分に該当しない
	急性毒性 (経皮)	区分に該当しない
	急性毒性 (吸入：気体)	区分に該当しない
	急性毒性 (吸入：蒸気)	区分 4
	急性毒性 (吸入：粉じん、ミスト)	分類できない
	皮膚腐食性／刺激性	区分 2
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 2A
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない

	発がん性	区分 1B
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分 1 (中枢神経系)
	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分 3 (麻酔作用)
	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分 3 (気道刺激性)
	特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	区分 1 (腎臓, 肝臓, 中枢神経系)
	特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	区分 2 (呼吸器系)
	誤えん有害性	分類できない
環境有害性	水生環境有害性 短期（急性）	区分に該当しない
	水生環境有害性 長期（慢性）	区分に該当しない
	オゾン層への有害性	分類できない

絵表示 (GHS JP) :

GHS02 GHS07 GHS08

注意喚起語 (GHS JP) : 危険

危険有害性 (GHS JP) :
引火性の高い液体及び蒸気 (H225)
皮膚刺激 (H315)
強い眼刺激 (H319)
吸入すると有害 (H332)
呼吸器への刺激のおそれ (H335)
眠気又はめまいのおそれ (H336)
発がんのおそれ (H350)
臓器の障害 (中枢神経系) (H370)
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害 (腎臓、肝臓、中枢神経系) (H372)
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ (呼吸器系) (H373)

注意書き (GHS JP)

安全対策 :
使用前に取扱説明書を入手すること。(P201)
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。(P202)
熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。(P210)
容器を密閉しておくこと。(P233)
容器を接地しアースをとること。(P240)
防爆型の電気機器／換気装置／照明機器／作業機器を使用すること。(P241)
火花を発生させない工具を使用すること。(P242)
静電気放電に対する措置を講ずること。(P243)
粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。(P260)
取扱い後はよく洗うこと。(P264)
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)
屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。(P271)
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。 (P280)

応急措置 :
飲み込んだ場合：気分が悪いときは医師に連絡すること。(P301+P312)
皮膚に付着した場合：多量の水で洗うこと。(P302+P352)
皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水／シャワーで洗うこと。(P303+P361+P353)
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて

容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)
ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察／手当てを受けること。(P308+P313)
気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。(P314)
皮膚刺激が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。(P332+P313)
眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること。(P337+P313)
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。(P362+P364)
火災の場合：消火するために適切な消火剤・消火器具を使用すること。(P370+P378)

保管 : 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。(P403+P233)
換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。(P403+P235)
施錠して保管すること。(P405)

廃棄 : 内容物／容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。(P501)

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 化学物質

名前	濃度 (%)	官報公示整理番号		CAS 番号
		化審法番号	安衛法番号	
1,4-ジオキサン	100	(5)-839	既存扱い	123-91-1

危険有害成分 : 1,4-ジオキサン

4. 応急措置

応急措置

応急措置 一般 : ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診断／手当てを受けること。
気分が悪いときは医師に連絡すること。

吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪いときは医師に連絡すること。
必要に応じて医師の診察を受ける。

皮膚に付着した場合 : 皮膚を流水／シャワーで洗うこと。
汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。
多量の水と石鹸で洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合：医師の診断／手当てを受けること。
必要に応じて医師の診察を受ける。

眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。
コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合：医師の診断／手当てを受けること。
必要に応じて医師の診察を受ける。

飲み込んだ場合 : 気分が悪いときは医師に連絡すること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候及び症状

症状/損傷 : 眠気又はめまいのおそれ。

症状/損傷 吸入した場合 : 呼吸器への刺激のおそれ。

症状/損傷 皮膚に付着した場合	:	刺激性。
症状/損傷 眼に入った場合	:	眼刺激。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	:	乾燥粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素、乾燥砂、水噴霧
使ってはならない消火剤	:	棒状注水を使用しないこと
火災危険性	:	引火性の高い液体及び蒸気。 燃焼時：一酸化炭素、二酸化炭素を放出する。
火災時の危険有害性分解生成物	:	不完全燃焼によって、危険な一酸化炭素、二酸化炭素、その他の有毒ガスを放出する。
消火方法	:	安全な距離と保護された場所から消火活動を行う。
消火時の保護具	:	適切な保護具を着用して作業する。 自給式呼吸器。 完全防護服。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

一般的措置	:	裸火、火花禁止、禁煙。 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。 皮膚、眼との接触を避ける。 適切な保護衣、手袋、眼または顔面用保護具を着用する。 作業所の十分な換気を確保する。 区域より退避させること。

環境に対する注意事項

環境に対する注意事項	:	環境への放出を避けること。 本製品が下水、または公共用水に流入した場合も、行政当局に通報する。 排水溝や河川へ廃棄してはならない。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

封じ込め方法	:	流出した物質は吸着剤で回収し、下水溝や水路への侵入を防止する。 大量流出した場合は、砂や土で回収する。
浄化方法	:	吸収剤の中で拡散した液体を吸収する。 本製品が下水、または公共用水に流入した場合も、行政当局に通報する。
二次災害の防止策	:	漏えいした場合、着火源を除去すること。 漏出物質により滑る危険がある。 火花を発生させない工具を使用すること。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

安全取扱注意事項	:	作業所の十分な換気を確保する。 熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざけること。－禁煙。 容器を接地すること／アースをとること。 火花を発生させない工具を使用すること。 静電気放電に対する予防措置を講ずること。 引火性蒸気が容器内に蓄積することがある。

防爆型装置を使用する。
個人用保護具を着用する。
使用前に取扱説明書を入手すること。
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
作業場における製品の放出を避けるため、または最小限にするため、技術的に必要なあらゆる措置をとる。
取り扱う製品数は必要最小限にし、ばく露使用者の人数を最小限に抑える。
部屋の排気および全般的な換気を確保する。
危険エリア内の床、壁、その他の表面は定期的に清掃しなければならない。
粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
皮膚、眼との接触を避ける。
火気厳禁。
皮膚および眼との接触を避けること。

衛生対策 : 作業服と外出着とを分ける。個別に洗う。
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
製品取扱い後には必ず手を洗う。

保管

安全な保管条件 : 換気の良い場所で保管すること。
涼しいところに置くこと。
容器を密閉しておくこと。
施錠して保管すること。
火気厳禁。

技術的対策 : 容器を接地すること／アースをとること。
換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

8. ばく露防止及び保護措置

ばく露限界値

成分	許容濃度	許容濃度 上限	特記事項 (JP)	管理濃度
1,4-ジオキサン	3.6 mg/m³ 1 ppm	-	経皮吸収; 発がん性分類 2B	10 ppm

設備対策 : 作業所の十分な換気を確保する。

保護具

呼吸用保護具 : [換気が不十分な場合]呼吸用保護具を着用すること。蒸気発生の危険がある場合は、適切なマスクを着用する。使用条件に適した保護具を着用する。

手の保護具 : 適切な耐薬品性・不浸透性手袋を着用する。手袋製造業者が指定する浸透性と浸透時間を遵守する。使用条件に適した保護具を着用する。

眼の保護具 : 安全メガネ。化学用ゴーグルまたはフェイスシールド。使用条件に適した保護具を着用する。

皮膚及び身体の保護具 : 不浸透性スーツを着用する。不浸透性の靴を着用する。靴を含め帯電防止服の着用を推奨する。使用条件に適した保護具を着用する。

環境へのばく露の制限と監視 : 環境への放出を避けること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	:	液体
色	:	無色
臭い	:	わずかな特異臭
pH	:	データなし
融点	:	11.8 °C
凝固点	:	データなし
沸点	:	101.3 °C
引火点	:	11 °C (TAG)
自然発火点	:	180 °C
分解温度	:	データなし
可燃性	:	データなし
蒸気圧	:	3.6 kPa (20℃)
相対蒸気密度 (20°C)	:	3 (Air=1)
相対密度	:	データなし
密度	:	1.033 g/cm³ (20℃)
相対ガス密度	:	データなし
溶解度	:	水: 水に可溶 有機溶剤: 有機溶媒に可溶
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	:	-0.42
爆発限界 (vol %)	:	2.0 – 22.3 vol %
動粘性率:	:	データなし
粘度:	:	1.31 mPa·s (20℃)
屈折率	:	1.4224 (20℃)
比熱	:	1.76 J/g
蒸発潜熱	:	413 J/g
電気伝導度	:	5×10^{-15}S/cm
体積固有抵抗	:	$2\times10^{14}\Omega\cdot$ c m
表面張力	:	33.4 mN/m (25℃)
粒子特性	:	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	:	引火性の高い液体及び蒸気。
化学的安定性	:	通常の条件下では安定。
危険有害反応可能性	:	空気との長期接触により爆発性過酸化物を形成することがある。 熱または混触危険物質と接触すると分解または爆発することがある。
避けるべき条件	:	混触危険物質との接触。高温面との接触を避ける。熱。炎や火花の禁止発火源をすべて断つ。
混触危険物質	:	腐食性物質。腐食性ガス。ニッケル合金。酸化剤。
危険有害な分解生成物	:	通常の使用条件及び保管条件下において、有害な分解生成物は生成されない。 高温にさらされると有害な分解物が発生する可能性がある。

11. 有害性情報

急性毒性 (経口)	:	区分に該当しない
急性毒性 (経皮)	:	区分に該当しない

急性毒性 (吸入) : 区分に該当しない(分類対象外) (気体)
吸入すると有害
分類できない (粉じん、ミスト)

ジオキサン	
ATE JP (蒸気)	11 mg/l/4h

1,4-ジオキサン (123-91-1)	
LD50 経口	5170 mg/kg
LD50 経皮 ウサギ	2100 mg/kg
LD50 経皮	2100 mg/kg
LC50 吸入 - ラット [ppm]	9158 ppm/4h
急性毒性 (経口)	ラットを用いた経口投与試験の LD50 は、4200mg/kg(環境省リスク評価(第 2 巻,2003))、5170mg/kg(CERI・NITE 有害性評価書（2006）)、5170mg/kg(DFGOTvol.20(2005))、5200mg/kg(IARC11(1976))、5345mg/kg(EU-RARNo.21(2002))、5400mg/kg(ACGIH(7th,2001))、6300mg/kg(DFGOTvol.20(2005))、6370mg/kg(EU-RARNo.21(2002))、6500mg/kg(EU-RARNo.21(2002))、7300mg/kg(CERI・NITE 有害性評価書（2006）)、7339mg/kg(EU-RARNo.21(2002))であり、4200mg/kg(環境省リスク評価(第 2 巻,2003))のみ国連 GHS 分類の区分 5 に該当するが、他の全てが区分外に該当するため区分外とした。
急性毒性 (経皮)	ラットを用いた経皮投与試験の LD50 は 2100mg/kg(CERI・NITE 有害性評価書（2006）)から、区分外(国連 GHS 分類の区分 5）とした。
急性毒性 (吸入:蒸気)	ラットを用いた吸入暴露試験(蒸気)の LC50=46mg/L(2 時間)(CERI・NITE 有害性評価書(2006))(環境省リスク評価(第 2 巻,2003))、51.3mg/L(4 時間)(EU-RARNo.21(2002))(ACGIH(7th,2001))により、4 時間の吸入暴露試験の LC50 値として換算すると、それぞれ 9158ppm 及び 14236ppm が得られた。飽和蒸気圧 38.1mmHg(25℃)[換算値 5079Pa(25℃)](HSDB(2005))における飽和蒸気圧濃度は 50132ppm である。今回得られた LC50 は、飽和蒸気圧濃度の 90%より低い濃度であるため、「ミストがほとんど混在しない蒸気」として、ppm 濃度基準値で区分 4 とした。区分の変更はガイダンスの変更による。

皮膚腐食性／刺激性 : 皮膚刺激

1,4-ジオキサン (123-91-1)	
皮膚腐食性／刺激性	ウサギを用いた皮膚刺激性試験(開放ドレイズ試験)で「中等度の刺激」(CERI・NITE 有害性評価書(2006)）、ウサギ、ラット及びマウスを用いた皮膚刺激性試験でわずかな刺激(EU-RARNo.21(2002))との記述から、区分 2 とした。

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 : 強い眼刺激

1,4-ジオキサン (123-91-1)	
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	ヒトへの健康影響のデータ(CERI・NITE 有害性評価書（2006）)(EU-RARNo.21(2002)）から、明確な陽性反応がみられるが、程度が腐食性との記載はない。また、ウサギを用いた眼刺激性試験では「強度の結膜浮腫、わずかな角膜混濁、結膜発赤（8 日後に結膜発赤が一部残存）」(EU-RARNo.21(2002))との記述から、区分 2A とした。なお、EU 分類では R36/37 である。

呼吸器感作性 : 分類できない

皮膚感作性 : 分類できない

1,4-ジオキサン (123-91-1)	
皮膚感作性	モルモットを用いた皮膚感作性試験(Directive84/449/EEC,B.6)(GLP)において感作性なしとの結果(EU-RARNo.21(2002)元文献 BASF(1993))が得られているが、ヒトのパッチテストで陽性との結果(EU-RARNo.21(2002))(NICNASPECNo.7(1998))も得られており、明確な分類はできない。

生殖細胞変異原性 : 分類できない

1,4-ジオキサン (123-91-1)	
生殖細胞変異原性	マウスの強制経口投与小核試験で陽性、陰性の結果がある(ATSDR(2007)、CERI・ＮＩＴＥ有害性評価書(2006)、NICNASNo.7(1998))が、試験の信頼性についての専門家判断により区分外とした。なお、ラット肝の DNA 損傷試験、DNA 合成試験、DNA 修復試験で陽性(CERI・ＮＩＴＥ有害性評価書(2006)、NICNASNo.7(1998)、PATTY5th(2001))、エームス試験、マウスリンフォーマ試験、染色体異常試験では、陰性(CERI・ＮＩＴＥ有害性評価書(2006))である。

発がん性 : 発がんのおそれ

1,4-ジオキサン (123-91-1)	
発がん性	【分類根拠】発がんに関して、ヒトを対象として発がん性を示す十分な報告はない。経口経路では適切な試験ガイドラインと GLP 基準に準拠して実施された（１）及び（２）において、実験動物 2 種の複数の部位に複数の試験で悪性腫瘍を含む腫瘍発生の増加が認められ、かつラットでは（３）で吸入経路でも経口経路と同様の腫瘍発生が認められたこと、及び（４）のとおり EPA も同様の根拠で L に分類していることを踏まえて、区分 1B とした。なお、旧分類と同じ試験結果に基づき分類したが、厚労省のがん原性試験結果報告で動物で発がん性ありとされ、有害性評価小検討会の審議を経てヒトにおける懸念から同省が指針を出したことを重視し、区分を変更した。【根拠データ】（１）ラットを用いたがん原性試験（2 年間飲水投与）において、雌雄の投与群には鼻腔の悪性腫瘍（主として扁平上皮癌）、肝細胞腺腫及び肝細胞がんの発生増加が認められ、雄投与群には加えて腹膜の中皮腫の発生増加も認められた（厚労省委託がん原性試験結果（1990））。（２）マウスを用いたがん原性試験（2 年間飲水投与）において、雌雄の投与群に肝細胞がんの増加が認められた（厚労省委託がん原性試験結果（1990））。（３）雄 F344 ラットに本物質蒸気を 2 年間吸入ばく露した試験では鼻腔の扁平上皮がん、肝細胞腺腫、腹膜の中皮腫、の発生増加がみられた（産衛学会許容濃度の提案理由書（2015）、IRIS（2013）；環境省委託試験：Kasai et al.（2009））。（４）国内外の分類機関による既存分類では、IARC がグループ 2B（IARC 71（1999）、EU CLP では Carc. 2、NTP が R（NTP RoC（14th, 2016））、EPA が L（Likely to be carcinogenic to humans）（IRIS（2013））、ACGIH が A3（ACGIH（7th, 2001））、日本産業衛生学会が 2B（産衛学会許容濃度の提案理由書（2015））に、それぞれ分類している。【参考データ等】（５）ラット及びマウスを用いた NTP による発がん性試験（飲水投与）においても、ラットで鼻腔腫瘍及び肝細胞腺腫の発生増加、マウスで肝細胞がんの発生増加が報告されている（NTP TR80（1979））。（６）本物質は労働安全衛生法第 28 条第 3 項の規定に基づき、厚生労働大臣が定める化学物質による労働者の健康障害を防止するための改正指針の対象物質である（平成 24 年 10 月 10 日付け健康障害を防止するための指針公示第 23 号）。

生殖毒性 : 分類できない

1,4-ジオキサン (123-91-1)	
生殖毒性	ラットの器官形成期に経口（CERI・ＮＩＴＥ有害性評価書(2006)）あるいは吸入（環境省リスク評価(第 2 巻、2003)）投与した試験において、一部で胎仔の重量減少と化骨遅延が認められたのみで仔の発生に対し悪影響は報告されていない。しかし、親動物の性機能および生殖能に及ぼす影響についてはデータ不足のため、「分類できない」とした。

特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 臓器の障害 (中枢神経系)
眠気又はめまいのおそれ
呼吸器への刺激のおそれ

1,4-ジオキサン (123-91-1)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	ヒトで吸入により、めまい、眠気、意識喪失などの症状（環境省リスク評価第 2 巻(2003)）に基づき区分 1（中枢神経系）とし、かつ、ラットに 155mg/L を吸入ばく露（EU-RAR21(2002)）、またはウサギに 6600mg/kg を経口投与（ATSDR(2007)）後の症状として麻酔の記載があることから、区分 3（麻酔作用）とした。一方、ヒトのばく露で鼻および咽喉に対し刺激性を示す報告が複数（EU-RAR21(2002)、ATSDR(2007)）あり、また、ラットに吸入ばく露した試験でも気道粘膜に対する刺激が観察されている（EU-RAR21(2002)）ことから、区分 3（気道刺激性）とした。なお、中枢神経系については、根拠となるデータはヒトおよび動物の毒性症状のデータであったが、いずれも軽度で一時的と考えられたため、麻酔作用に含まれるものとみなし、中枢神経系には分類しなかった。また、肝臓と腎臓については、実際の試験データに基づく記載が確認できず、証拠として不十分なため採用しなかった。

特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害 (腎臓, 肝臓, 中枢神経系)
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ (呼吸器系)

1,4-ジオキサン (123-91-1)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	本物質を使用した作業者で死亡した 5 人について、腎臓の出血と壊死ならびに肝臓の壊死が報告されている（CERI・NITE 有害性評価書(2006)）こと、さらに、換気設備のない密室で 1 週間本物質にばく露された 1 人の作業者が筋緊張亢進、神経症状、腎不全、腎臓皮質の壊死、重度の肝臓の小葉中心性壊死、脳に脱髄と神経線維の部分的欠損を示したとの報告（EU-RARNo.21(2002)）があることに基づき、区分 1（腎臓、肝臓、中枢神経系）とした。一方、ラットを用いた 2 年間の経口投与試験で気道上皮の変性が 16mg/kg/day（区分 2 相当）で認められた（環境省リスク評価第 2 巻(2003)）との記述があることから、区分 2（呼吸器）とした。

誤えん有害性 : 分類できない

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期（急性） : 区分に該当しない
水生環境有害性 長期（慢性） : 区分に該当しない

ジオキサン	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	-0.42

1,4-ジオキサン (123-91-1)	
水生環境有害性 短期（急性）	魚類（ヒメダカ）での 96 時間 LC50>100mg/L（環境省生態毒性試験報告,

	1995, 他）、甲殻類（オオミジンコ）での 48 時間 EC50>1000mg/L（環境省生態毒性試験報告, 1995, 他）、藻類（Pseudokirchneriella subcapitata）での 72 時間 ErC50>1000mg/L（環境省生態毒性試験報告, 1995, 他）であることから、区分外とした。
水生環境有害性 長期（慢性）	難水溶性でなく（水溶解度=1000000mg/L（PHYSPROP Database、2009））、急性毒性が低いことから、区分外とした。

残留性・分解性

ジオキサン	
残留性・分解性	データなし

生体蓄積性

ジオキサン	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	-0.42
生体蓄積性	データなし

土壌中の移動性

ジオキサン	
土壌中の移動性	データなし
表面張力	33.4 mN/m (25℃)
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	-0.42

オゾン層への有害性

オゾン層への有害性 : 分類できない
その他の有害な影響 : 追加情報なし

13. 廃棄上の注意

廃棄方法 : 内容物／容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。
環境影響情報 : 許可を受けた人/許可を受けた廃棄物処理業者、またはその他の適切な廃棄物処理技術を用いて処理する。
汚染容器及び包装 : 容器の内容物を完全に除去してから廃棄する。
許可を受けた人/許可を受けた廃棄物処理業者、またはその他の適切な廃棄物処理技術を用いて処理する。
追加情報 : 引火性蒸気が容器内に蓄積することがある。

14. 輸送上の注意

国際規制

国連勧告(UN RTDG)	海上輸送(IMDG)	航空輸送(IATA)
国連番号		
1165	1165	1165
国連正式品名		
ジオキサン	DIOXANE	Dioxane
輸送危険物分類		
3	3	3

容器等級		
II	II	II
環境有害性		
環境有害性：非該当	環境有害性：非該当	環境有害性：非該当

追加情報 : 引火性蒸気が容器内に蓄積することがある。

海洋汚染物質 : 非該当

MARPOL 73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質

IBC コード製品名 : 1,4-Dioxane
船種 : タイプ 2
汚染物質カテゴリー : Y

国内規制

陸上規制 : 消防法、労働安全衛生法、毒劇法等に定められている運送方法に従うこと。
海上規制情報 : 船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報 : 航空法の規定に従う。
緊急時応急措置指針(ERG)番号 : 127
その他の情報 : 補足情報なし

15. 適用法令

国内法令

化審法 : 優先評価化学物質（法第２条第５項）
労働安全衛生法 : 特定化学物質第２類物質、特別有機溶剤等（特定化学物質障害予防規則第２条第１項第２号、第３の２号、第３の３号）
特定化学物質特別管理物質（特定化学物質障害予防規則第３８条３）
名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第５７条第１項、施行令第１８条第１号、第２号別表第９）
名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第５７条の２、施行令第１８条の２第１号、第２号別表第９）
１，４－ジオキサン (政令番号：227) (100%)
特別規則に基づく不浸透性の保護具等の使用義務物質（令和５年７月４日基発０７０４第１号・４該当物質の一覧）
作業環境評価基準（法第６５条の２第１項）
危険物・引火性の物（施行令別表第１第４号）
特殊健康診断対象物質・現行取扱労働者（法第６６条第２項、施行令第２２条第１項）
健康障害防止指針公表物質（法第２８条第３項・厚労省指針公示）
毒物及び劇物取締法 : 非該当
消防法分類 : 第四類 第一石油類 水溶性 「火気厳禁」 危険等級 II
化学物質排出把握管理促進法(PRTR 法)(令和５年４月改正) : 第１種指定化学物質（法第２条第２項、施行令第１条別表第１）
１，４－ジオキサン (管理番号：150) (100%)
船舶安全法 : 引火性液体類（危規則第２，３条危険物告示別表第１）
航空法 : 引火性液体（施行規則第１９４条危険物告示別表第１）
海洋汚染防止法 : 有害液体物質（Ｙ類物質）（施行令別表第１）

危険物（施行令別表第１の４）

労働基準法 : 疾病化学物質（法第７５条第２項、施行規則第３５条別表第１の２第４号１）

政府インベントリリスト

アメリカ(TSCA)	:	収載あり
カナダ(DSL)	:	収載あり
オーストラリア(AICS)	:	収載あり
韓国(KECL)	:	収載あり
中国(IECSC)	:	収載あり
ニュージーランド(NZIoC)	:	収載あり
フィリピン(PICCS)	:	収載あり
台湾(TCSI)	:	収載あり

輸出統計品目番号(HS コード) : 2932.99-000

HS コードについて : 参考情報として HS コードを記載していますが、解釈･用途等により他コードを適用可能な場合があります。輸出の際には、輸出者の責任において選択した上で税関の指示に従い適切に対応して下さい。

16. その他の情報

連絡先 : 東邦化学工業株式会社 研究開発本部 化学品管理室(SDS 作成部署)
電話番号 046-866-5733 Fax 番号 ; 046-866-5731
E-mail ; msds@toho-chem.co.jp

参考文献 : GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法－ラベル、作業場内の表示及び安全データシート（SDS）（JIS Z7253:2019）。
GHS に基づく化学品の分類方法（JIS Z7252:2019）。
事業者向け GHS 分類ガイダンス（経済産業省）。
日本化学工業協会 GHS 対応ガイドライン。
製品評価技術基盤機構(NITE) GHS 分類データ。
界面活性剤の GHS 対応 SDS 作成ガイド（日本界面活性剤工業会）

その他の情報 : EU REACH 登録については弊社営業担当にお問い合わせ願います。
韓国に輸入する際は化学物質の登録及び評価に関する法律(K-REACH)に基づき登録が必要になる場合があります。
詳しくは弊社営業担当にお問合せ願います。
台湾インベントリー(TCSI)登録あるいは準拠物質を台湾に輸入する際に100 kg/年の量を超える場合 (混合物の場合は各成分毎の量) は輸入者による第 1 段階登録が必要です。
本 SDS は令和 4 年公布 労働安全衛生規則等の一部を改正する省令の内容に準拠しております。

免責条項 当該シートに記載されている情報は信頼できる情報をもとにしているが、情報の正確性について明示・暗示を問わずいかなる保証をするものではありません。製品の取扱い、使用、保管または廃棄条件は当社の管理外であり、我々の認知するところではないことがある為、製品の取扱い、使用、保管または廃棄によって生じる損失、損害または費用に対する責任は、直接・間接を問わず一切負いません。当該安全データシートは本製品にのみ使用するべきであり、本製品がその他の製品の成分として使用される場合は、当該シートに記載されている情報が適用されないことがあります。